

## 認知症地域支援体制構築等推進事業 中間報告（松阪市）

### ○事業経過

| 月 日    | 内 容                     | 内 容                              |
|--------|-------------------------|----------------------------------|
| 4月14日  | 事業打ち合わせ                 | コアメンバーの選定など                      |
| 4月28日  | 第1回プロジェクトチーム会議          | 基本姿勢と事業内容の確認                     |
| 5月14日  | 医師会との協議                 | 「物忘れ相談会」「かかりつけ医」研修会について協力依頼      |
| 5月30日  | 第2回プロジェクトチーム会議          | 包括毎に選定する小エリアの検討                  |
| 6月23日  | 第3回プロジェクトチーム会議          | マップづくりをどのように進めていくか（メイトの意見を聞くことに） |
| 7月18日  | 第1回キャラバンメイトの集い          | サポーター講座実施経験者の講話<br>本事業の説明と協力依頼   |
| 7月29日  | 三重県第1回推進会議に参加           | 本年度の取り組みについて報告                   |
| 7月31日  | 第4回プロジェクトチーム会議          | マップづくりの骨子について協議                  |
| 8月2日   | 認知症講演会<br>(かかりつけ医向け研修会) | 医師会との共催で開催<br>鳥取大学 浦上 克哉先生       |
| 8月3日   | 認知症講演会（一般住民向け）          | 鳥取大学 浦上 克哉先生<br>認知症スクリーニング機器体験   |
| 8月26日  | 第2回キャラバンメイトの集い          | 地域資源マップづくりについてグループワーク（別紙参照）      |
| 9月12日  | 第5回プロジェクトチーム会議          | マップの概要について意見集約                   |
| 9月14日  | 健康フェスティバルにて啓発           | 認知症スクリーニング機器の体験                  |
| 10月21日 | 認知症講演会（飯高）              | 三重県立看護大 伊藤 薫先生                   |
| 10月27日 | 包括連絡会にて方向性の確認           | 包括毎に小地域でアプローチを開始<br>薬剤師会との意見交換   |
| 10月30日 | 認知症講演会（三雲）              | 三重県立看護大 伊藤 薫先生                   |
| 10月31日 | 認知症講演会（本庁管内）            | 三重県立看護大 伊藤 薫先生<br>認知症スクリーニング機器体験 |
| 11月7日  | 事業打ち合わせ                 | 脳の健康チェック、脳のひらめき教室                |
| 11月12日 | 認知症講演会（嬉野）              | 三重県立看護大 伊藤 薫先生<br>認知症スクリーニング機器体験 |
| 11月18日 | 第6回プロジェクトチーム会議          | マップ（共通版）づくり                      |
| 11月19日 | 三重県第2回推進会議に参加           | 事業進捗状況について報告                     |
| 1月21日  | （予定）認知症講演会（飯南）          | 三重県立看護大 伊藤 薫先生                   |

## ○マップづくりと地域へのアプローチ

### ●地域づくりのツールとして

キャラバン・メイトを積極的に地域づくりへ。集いを利用し、マップづくりへの意見やアイデアを出し合ってもらった。小地域での取り組みにも協力を依頼。

### ●マップの体裁

市全体の情報を掲載した共通版と、包括毎に設定したエリア限定版の2種類を作成する。

- ・共通版はA4サイズ見開き ポケット付き

5つの包括の位置を示した市全体の概略図や、共通する公的な機関や認知症のことを相談できる医療機関等の情報などを掲載する。

- ・エリア限定版は、ポケットに差しこむ形で利用できるようにする。

### ●活用方法

- ・本年度は共通版を作成し、それを基に小地域での資源の掘り起こしを進める。出来上がった小地域のマップは常に手直ししていく。

## ○「物忘れ相談会」の開催

毎月開催（定員4人）

| 月 日    | 担当医療機関（科目）      | 担当包括 | 参 加 |
|--------|-----------------|------|-----|
| 8月7日   | 南勢病院（精神科）       | 第一   | 2名  |
| 9月18日  | 済生会松阪総合病院（神経内科） | 第二   | 3名  |
| 10月16日 | 南勢病院（精神科）       | 第三   | 3名  |
| 11月21日 | 松阪中央総合病院（神経内科）  | 第四   |     |
| 12月3日  | 松阪厚生病院（精神科）     | 第五   |     |
| 1月23日  | 済生会松阪総合病院（神経内科） | 第一   |     |
| 2月4日   | 松阪厚生病院（精神科）     | 第二   |     |
| 3月未定   | 松阪中央総合病院（神経内科）  | 第三   |     |

<当日の流れ>

- ① 受付
- ② 保健師等による主訴の聴き取りや確認作業、チェックリストの記入など  
(1人約30分)
- ③ 担当医による相談（1人約30分） 基本的に①を行った担当者が同席する。  
必要な方には、専門医のリストを情報提供する。
- ④ 全相談終了後、カンファレンス
- ⑤ 各支援関係者への連絡調整（かかりつけ医、ケアマネジャーなど）

<課題>

担当医師の確保と定期開催

「かかりつけ医」と「専門医」の連携推進

## ○認知症講演会

### 1. かかりつけ医向け研修会

日 時 平成 20 年 8 月 2 日(土) 19:30~21:00

講 師 鳥取大学医学部教授 医学博士 浦上 克哉 氏

演 題 「かかりつけ医に期待される認知症診療

～早期発見から治療に向けて～」

参加者 医師会 28 名、歯科医師会 20 名、薬剤師会 6 名、  
その他（来賓・県職員・包括・市事務局） 18 名、 計 72 名

この事業の大きな柱と位置づけている『医療との連携推進』を図るため、医師会と協力して医師向けに開催した。認知症の権威である講師に指導を得たことによって、認知症診療における最前線の情報と共に、かかりつけ医との連携がいかに大切かを伝えることができた。

かかりつけ医が認知症への理解を深め、専門医受診へ繋げられれば、早期発見・早期治療への可能性が広がり、地域で多くの高齢者を支えていくことができる。また、今後事業として推進していく「物忘れ相談会」や、「認知症スクリーニング」とそれに続く「認知症予防教室」について、医師の理解を促進できたのではないかと思われる。

### 2. 一般住民向け講演会（サポーター養成講座を兼ねる）

日 時 平成 20 年 8 月 3 日(日) 10:00~12:00

講 師 鳥取大学医学部教授 医学博士 浦上 克哉 氏

演 題 「認知症ってなんだろう？ ～理解を深め、地域でできることを探る～」

参加者 一般住民 126 名、 民生委員 8 名、シルバー人材センター関係 25 名、  
医師 3 名、 その他（県職員・包括・市事務局） 17 名 合計 179 名

今後急増していくことが予測されている認知症に対し、関心が高まってきている半面、予防や治療が不可能な病気ではないかという不安を多くの住民が抱えていることがよくわかった。誰もが罹りうる病気ではあっても、今は予防や治療が可能な時代になりつつあること、そのために早くから正しい理解をして、予防の取り組みに参画していくことが大切であることを感じとってもらうことができた。

アンケートにおいても、「わかりやすい話で認知症という病気をよく理解することができた。」「希望を感じることができた。」「早くタッチパネルを買って、予防事業を進めてほしい。」という記述が多く寄せられた。また、「地域でできることを考えたい。」等の意見も多く、「認知症サポーター養成講座」としての啓発の目的も果すことができた。

### 3. その他講演会 市内 5 会場にて開催（講師 県立看護大 伊藤 薫先生）

## ○認知症の人や家族を支える人材の育成

### 1. オレンジの会

認知症を正しく理解し、その啓発と共に、認知症予防教室等のサポーターとして市の事業の支援を行うことを目的に組織化された住民グループ

|                        |                |
|------------------------|----------------|
| ＜平成 19 年度＞の下記講座修了生で組織  |                |
| 介護予防いきいきサポーター養成講座（初級編） | …介護予防全般 基礎講座   |
| ”                      | （中級編）…認知症を学ぶ講座 |

現在、市内の宅老所からの依頼で、脳活性化ゲームの指導（スリーA）を行っている。

また、平成 21 年 1 月から開催予定の認知症予防教室（脳のひらめき教室）のサポーターとして活動予定である。

### 2. 認知症キャラバン・メイト支援と認知症サポーター講座

- ①定期的に「メイトの集い」を開催し、情報交換やスキルアップの研修の機会を持つ。
- ②本事業の核となる人材と位置づけ、マップの骨子検討やアイデア提供に協力を乞う。
- ③事業の進捗状況を常にフィードバックし、地域づくりに積極的に関わられるよう支援していきたい。

#### ●平成 20 年度 認知症サポーター養成講座の展開

10 月末現在 19 回 延サポーター数 1,017 人

メイトの集いの研修会において、講師から『単に講座を開催してオレンジリングを配るというのではなく、一人ひとりに自覚を持ってもらえるよう登録制にすべきではないか』とのアドバイスを得て、その後は、実人数の把握に努めることにした。マップづくりを始めとして、今後の地域づくりに何らかの関わりを持ってもらえるよう促したい。

また、学校や職域への広がりを得られるよう、県の動きに連動していきたい。

## ○認知症予防への取り組み

### 1. スクリーニングの実施（脳の健康チェック）

タッチパネル式認知症スクリーニング機器（物忘れ相談プログラム）を 4 台購入。

1 月 8 日、1 月 14 日に「脳の元気度チェック」として実施。



### 2. 認知症予防教室（脳のひらめき教室）…当面は一般高齢者施策として実施

1 月 22 日～3 月 26 日まで、週 1 回 10 回コースの教室を開催予定。

スリーAの脳活性化ゲーム等を導入。オレンジの会が教室サポーターとして関わる。

## ○今後の課題

「医療面での安心」と「地域力で支える安心」の構築を事業の大きな柱にしているが、目標達成は容易なことではない。しかし、地区医師会の協力を得て、かかりつけ医向け研修会（講演会）の実施や「物忘れ相談会」の開催ができたことを大切に、それらが定着していくよう実践を積み上げたい。そのためにも相談者支援を継続し、かかりつけ医にきちんと返していくことで専門医との連携を推進したい。また、10月末には認知症スクリーニング機器が導入できたので、早期発見・早期治療への新たな道筋が出来ていくよう努めるとともに、認知症の発症前のグレーゾーンの人々へのアプローチも行いたい。

「地域力」構築の点では、5つの地域包括支援センターが核となって地域のネットワークづくりが進むよう、マップづくりをツールとしながら、多くの協力者を巻き込んでいけるよう努力したい。またキャラバン・メイトの支援を軸として、認知症サポーター養成講座の継続も重要であり、各地域で積極的な企画があがるよう支援していきたい。

また、オレンジの会など地域活動に積極的な人材に対し、その活動の場をコーディネートしていくことも重要な課題であると考えている。